

岐阜県立多治見高等学校

学校長 水口 猛

学校住所 多治見市坂上町 9-141

電話 0572-22-4155

1 会議の名称 岐阜県立多治見高等学校評議員会 (第2回)

2 会議の構成 委 員 伊藤 ゆかり 本校卒業生
加藤 芳美 元本校育友会役員
小境 邦裕 多治見青年会議所理事長
中川 進 JR東海多治見駅主席助役
村松 敦子 多治見市養正公民館館長
(委員名は五十音順)

学 校 側 水口 猛 校長
今井 雅人 教頭
尾形 昭 事務長
西田 智子 教諭 (教務主任)
加藤 元規 教諭 (生徒指導部長)
岡崎 正路 教諭 (進路指導部長)
丸山 真 教諭 (保健厚生部長)
堀 裕邦 教諭 (特別活動部長)
成瀬 和康 教諭 (教務部)

3 会議の目的 学校運営や教育活動について地域社会や保護者などに説明責任を果たすとともに、要望や意見を幅広く聞き、地域社会からの支援・協力を得て、それを反映できる開かれた特色ある学校作りを推進する。

4 会議の開催 平成31年2月12日(水) 13:30~16:00 多治見高等学校校長室
委員5人と学校側9人が出席

5 会議の概要

学校からの説明

○ (校長)

今年度学校評議委員を務めていただきお礼申し上げます。この場では、今日の授業の感想を含めて、どの分野でもいいので忌憚のないご意見をいただきたい。

○ (教務主任)

生徒及び保護者等を対象とするアンケートの学習指導に関する項目を中心に説明したい。少人数指導に対する評価がやや低いのは、少人数の考え方に差があることが原因と考えられる。教員側は、1年生6クラスが31人クラスということ自体を少人数であると捉えているが、生徒は10人程度の人数を想定していて実感が乏しいからではないか。来年度は31人でもより少人数を実感できる授業展開を考えたい。

総合的な学習に時間に関する評価がやや低いのは、教科の中で実施したり、月曜日中心にやっていたりしていた関係で、系統的な指導がしにくかった反省がある。来年度は木曜日に移し、時間を確保するとともに、LHRとの連携を図るなど、より生徒の探究活動を充実させたい。

○（進路指導部長）

今年度のここまでの大学合格状況を見ると、国公立大学は出願数の減少にともない合格者は減少している。私立大学はAO・推薦入試合格者の増加が特徴である。十分国公立大学を受験できる学力を持ちながら、私立大の推薦入試に出願して合格した生徒もいる。保護者・生徒ともに早期に進路決定したいという傾向が強まってきている。

今後の大学入試対策としては、ペーパーテストへの指導のみならず、高校生活全般の諸活動の質や実績を向上させるため、外部のイベントやコンテストなどに積極的参加するなど、二本立ての指導が必要だと考えている。

サタスタも一部の生徒のモチベーションの低下が見られるため、より教員の指導力を向上させなければいけない。

学校評議員からのご意見・ご感想

（意見1）

進路を早く決定したいという受験生・保護者の声はよく聞く。

（意見2）

AO・推薦入試にも学力が必要ではないのか。だとすれば早く目的を持たせ、早くその気にさせたり、努力方法を定着したりするために、AO・推薦入試が役に立つのではないのか。

（回答）

学力を必要とするかしないかは大学によるため、AO・推薦入試では学力の担保は必ずしも保証されない。まずは2年生から進路意識の向上をさせたい。

（意見3）

学習指導における厳しい評価は、教員への期待の裏返しでより指導力が求められる証拠ではないか。アンケートだけでなく、中長期の視点から生徒の変容を捉えて判断することも必要ではないか。

（意見4）

早く進路先を決めたいという姿勢には不安を感じる。一方で、今日の課題研究発表会の発表内容や姿勢は今後生きる素晴らしい活動だと感じた。

（意見5）

時間をかけて研究した内容や経緯を5分で簡潔にまとめた今日の課題研究の発表は素晴らしい。多治見高校の少数指導や総合的な学習の時間への対策がよくわかった。移行期間はなかなか結果が出ないが、今後楽しみにしている。

学校からの説明

○（生徒指導部長）

全体的に高評価をいただいている点から見て、生徒は落ち着いて学校生活を送っていると考えている。今年度は校長を先頭に朝の挨拶運動を展開した効果もあらわれている。

スクールカウンセラーと2名の教育相談係の教員を中心に、本校の教育相談は大変機能している。いじめに関する調査の対応も迅速で、ほとんど問題は生じていない。一方、不登校傾向の生徒は増加していて今後の対応が課題である。

○（特別活動部長）

部活動に関する満足度は高いが、学習との両立に悩む生徒が多いという課題がある。

ボランティア活動については、個人レベルでの参加意識をより向上させたい。

今年度生徒会活動に校長との座談会を設けたことにより、生徒会の意見が校内に伝わりやすくなった。今後一層生徒会の意見が校外に伝わるようにしたい。ホームページの内容も充実させたのでご覧いただきたい。

○（保健厚生部長）

防災意識の浸透度は、保護者に比べて生徒の評価が低い。今年度は生徒の意識向上を図るため、各回の防災避難訓練をさまざまな形態で実施した。

掃除に関する意識は、実績の割にまだまだ生徒に自覚が足りない。より啓発活動を行い生徒の意識を高めたい。

学校評議員からのご意見・ご感想

（意見6）

不登校傾向の生徒に対して外部のカウンセリングの回数を増やすことができないのか。
公民館活動においては高校生のボランティアがもっと必要なので、より公民館からもPRしたい。

（回答）

スクールカウンセラーの活用は、予算枠を最大限に活用して実施している。講演やその他の相談活動を充実させたい。

（意見7）

挨拶運動の取り組みは参考になるので、自分の職場でも生かしたい。職場を中心に、より高校生の方との交流ができる事業を考えたい。

（意見8）

落ち着いた環境であることは評価できるが覇気がないと感じる。より活発に自分の意思表示ができる働きかけが望まれる。校長との座談会の企画は素晴らしい。

（意見9）

不登校の生徒の問題は大人の社会の縮図である。学校行事での充実感を生かしてほしい。
挨拶は高校生だけではなく、社会人においても気になる点が多い。

（意見10）

楽しいことが学校にあるという環境作りが大切だと思う。
地元の職場がやっている清掃活動などもっと連携を深めることができればいい。

学校からの説明

○（教頭）

アクティブ・ラーニングの研究指定のまとめを今年度行っただが、より教員の力量を高める必要性を感じた。今後は「カリキュラム・マネジメント」＝教育目標に沿った学校指導計画が求められるが、本校の教育目標はあまりに古く多様で抽象的である。来年度はよりわかりやすい目標に見直すことを検討中である。

学校評議員からのご意見・ご感想

(意見 1 1)

自然科学の発表に動画を入れて発表できるとよかった。自然科学コースの廃止は残念である。

(回答)

コースはなくなるが授業や課外の活動において、自然科学分野への取り組みを興味ある生徒を中心に継続させたい。

(意見 1 2)

先生の働き過ぎはないのか。

(回答)

春先の教職員の残業時間に比べて、だんだんと減少している。また、留守番電話の導入など少しずつではあるが身の回りの部分からも改善を図っている。来年度はさらに教職員への意識向上と業務の効率化を進めたい。

6 会議のまとめ

(校長)

今日はいろいろなご意見をいただきありがとうございます。皆様のご意見によって、これからの多治見高校の方向性を示唆していただいた。来年度はさらに一層教員の資質向上と外部との積極的な連携を図りながら、多治見高校の良さを積極的に発信していきたい。

また教育目標も、多治見高校生や外部の方にわかりやすく伝わるものに変えていきたい。